

就任のご挨拶

———— 幹事長 ————
岩井 泉
Iwai Izumi (43期)



平成31年(2019年)度友新会幹事長に就任いたしました。一年間、よろしくお願いいたします。

友新会のホームページには、「友新会の誕生」について、次のような記述があります。「明治32(1899)年4月、設立に関わった武内作平・岩崎幸治郎・高窪喜八郎・中井隼太更には内藤正知らがどのような契機・経緯で友新会結成に至ったかは残念ながら不明である。しかし、当時はなおも三百代言と称されたころの悪弊の印象が強く、弁護士会員内外において、品位・信用の向上が強く求められていたこと、政党内閣の成立に伴い、貴族院勢力に対抗するものとして民選議員の発言力が強まりその中に数多くの弁護士が含まれていたこと、更には社会の近代化の中で、矛盾の顕在化や、これらを巡る言論の活発化等々の背景の中で、お互いの友情を深め相互に研鑽しあって高めあい自らの地位向上をはかろうとする組織が必要とされたのではなかろうか。」。

当時と今とでは弁護士を取り巻く環境は全く異なりますが、弁護士人口の増加、弁護士を構成する世代の変化、弁護士業務の多様化、弁護士を見る世間の目の変化などといった昨今の弁護士事情を見るにつけ、「お互いの友情を深め相互に研鑽しあって高めあい自らの地位向上をはかる」という理念は現代の弁護士にも妥当するものである、との思いを強くしています。

本年度、友新会は120周年を迎えます。これを機に、今一度、友新会の原点に学び、「お互いの友情を深め相互に研鑽しあって高めあい自らの地位向上をはかる」という理念を現代の弁護士に当てはめてみることを意識して、会務の運営にあたりたいと思います。

■会員目線に立った会務運営

「お互いの友情を深め相互に研鑽しあって高めあい自らの地位向上をはかる」ことを実現するためには友新会会員のニーズを踏まえることが不可欠です。友新会には伝統的に受け継がれてきた良さがある一方で、会員が求めるものは多様化しています。本年度は、できるだけ会員のニーズ汲み取って会務運営に生かすことを意識したいと思います。

■多様な親睦・研鑽の機会の提供—120周年記念事業との連携

「お互いの友情を深め相互に研鑽しあう」ためには、親睦、研鑽を問わず多種多様な機会を提供するのが有益であることは言うまでもありません。120周年という節目の年に当たり、実行委員会とも連携して、例年にも増して多種多様な親睦・研鑽の機会を提供していきたいと思います。

■会長会派としての会務のサポート

「お互いの友情を深め相互に研鑽しあって高めあい自らの地位向上をはかる」という理念は、会派である友新会のみならず、大阪弁護士会の活動と重なる部分も少なくありません。今年度、友新会は、大阪弁護士会の会長として今川忠会員を送り出しており、友新会としての立場から、弁護士会の会務をサポートしていきたいと思います。

以上のような思いから、執行部では熟慮の末、本年度のキャッチフレーズを、
Spring has come.

とすることにしました。

「春」は季節の中でも最も明るく、爽やかな季節です。年度のスタートで決意を新たにする希望に充ちた季節でもあります。春夏秋冬を繰り返す時は経過していくものであり、120年前の「春」にも、新たな決意を持って友新会が設立されたわけですが、同じ「春」でも120年前とは一味違った「春」を、我々執行部が友新会に、友新会が弁護士会に連れてきたんだ、そう言ってもらえるような一年にしたい、といった思いを、「春が来た」-Spring has come.と表現してみました。

このキャッチフレーズの下、執行部一同、友新会を盛り上げていきたいと思っておりますので、一年間よろしくお願いいたします。